

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292100031		
法人名	〈有〉弦観光		
事業所名	グループホーム 吉岐の郷		
所在地	長崎県吉崎市石田町筒城東触1840-3		
自己評価作成日	平成29年 2月 13日	評価結果市町村受理日	平成29年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設としては、少人数の施設ならではの対応が出来たらと思います。個別の対応に力を入れ、家族とも顔の見える近い関係を築いていっています。基本的な考え方として、家にいたらししているイベント、外出に力を入れ、外に出る機会を多く取り入れています。また、食事に関しても、施設だからという考え方はせず、刺身、うになど生ものあたり、焼き肉をしたり、おせちやお餅なども提供しています。おやつに関しても、回転焼きを買ったり、ケーキなども、糖尿の方も、医者、家族の同意のもと特に制限無く提供しています。苦手な物は提供せず、別の物に変えたり、ごはんをパンに変えたりしています。外出も、昼間だけでなく、夜間のコンサートなど、希望があれば、こちらの対応が効く限り見に行きました。外出時のご飯も、食堂で好きな物を食べたり、好きなお弁当を購入したりしています。個人的な買い物など、何かのついでではなく外出することもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は理念である「生きがいのある自由な毎日」を実現するために、利用者の方を活かし、洗濯物たたみや食事の下準備等の家事、折り紙や編物等を支援している。また個別ケアに力を入れており、利用者の要望があればすぐに実現できるよう支援に努めている。利用者が発した言葉から、外出や外出に全員で出掛けたり、夜間のコンサート鑑賞を支援する等、職員はフットワークが軽く、対応がスピーディーである。運営推進会議では、参加メンバーの意見やアドバイスに耳を傾け、サービス向上に活かしている。さらに透明性のある事業所であることが、ヒヤリハットや事故報告について詳細を公表している議事録から確認できる。夜勤者1名体制から宿直者を増員したことで、起床時の見守り体制が強化され、利用者の転倒事故が減少している。不審者対策も事業所全体で対策を練っており、家族に安心感をもたらしている。前年度の気づきであった地域との交流について、近隣保育園児の慰問「えがお交流会」を実現させており、利用者の生きがい作りに真摯に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人個人の意見を聞いて対応している。何かあれば連携している。	開設時に職員全員で話し合い作成した理念は、事業所内に掲示している。管理者は職員が日々の介護をする上で迷った時等、理念を振り返り支援に努めるよう話している。職員は利用者の個性を大切に、役割をもってもらうことで「生きがいのある自由な毎日」が送れるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、地域行事には、草切りなど参加している。	町内会に加入しており、地域の草刈り等に職員が参加している。町内会の総会には代表が出席しており、地域の一員として認知されている。民宿の畑を借りて芋を栽培したり、島内のグループホームと運動会を開催する等の交流を行っている。今年度、近隣の保育園児との交流が実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に取り組んではいないが、保育所との交流等、昨年から行えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生かしている。意見は取り入れている。保育所の慰問も取り入れたひとつです。	会議は規程のメンバーで実施しており、利用者の状況や事故報告が行われている。メンバーからの意見や提案が多く、「前回の議事録を作成してほしい」という意見から、毎回配布するよう改善したり、提案により保育園との交流が実現している。ただし、今年度は5回の実施に留まっている。	省令において年6回以上の運営推進会議開催が求められており、事業所のサービス向上のため、会議の実施が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広報を送ったり、会などで顔を見かけたら、話しかけるようにしている。	管理者は書類提出の他、事業所便り「えがお」を担当課に配付し、利用者の状況や暮らしぶりを伝えている。事故やインフルエンザ感染者が発生した際は、状況報告を行っている。また、介護認定時に担当課員が訪問するケースもあり、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全上施錠している。昼間は空けており、身体拘束などしてはいない。	言葉遣いが気になる職員には、管理者がその都度注意している。夜間のセンサーの使用前には家族の同意を得ており、継続の有無について検討を行っている。転倒のリスクが高い場所や時間帯について、安全管理事故防止委員会が中心となって統計を取り、転倒防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会はしている。虐待のないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の利用者が施設から退所され、学ぶ機会は薄れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改訂時は説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで外部に反映している。また、家族会などでもお伝えしている。	日頃から家族の訪問時や病院受診の際に、要望を聞き取る他、年2回の家族会でも意見を聞き取っている。家族会では、利用者の作品展や会食を企画し、意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。家族には事業所便りを年3回送付し、外出や行事の様子を詳細に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	給与面や要望(購入品など)出来ている。	日頃より、代表者・管理者と職員はコミュニケーションを密に取っている。物品の購入は職員で話し合い、要望を提出するケースが多い。安全管理事故防止委員会等数種の委員会が主導的立場で、改善点を話し合っている。また、島内の同業の事業所との事例発表会で得た情報を基に検討し、記録様式等改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況はなかなか難しいが、気にはかけてくれ努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、初任者研修など進めてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉岐島内のもう一つのグループホームとの交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分で訴えが出来ない方へは難しいが、可能な方には出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への対応は出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急な運動会の見学や、病院の受診など柔軟に対応出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員と言う関係より、一歩踏み込んだ家族に頼られるような、個別の対応が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来ていると思う。困ったときは家族と相談したり、随時報告したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所の訴えはない。個人的に友人が訪ねてこられる方はいる。	暑中見舞いや年賀状に利用者の写真を掲載し、職員が手書きで利用者の近況を書き添え家族へ送っている。携帯電話を所持している利用者もいる。親族の結婚式出席のため、家族と共に島外へ出掛けたり、衣替えのため自宅へ帰る利用者に職員が付き添う等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話等出来るように座って頂いている。文句も仲良く言われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への面会や、町で会ったら、家族と話になる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人、その人の意志、希望は聞いて、本人本意で動いている。	職員は、利用者それぞれの得意なことや趣味等を把握し、継続できるよう支援している。折り紙や編物をする人、寝具の繕い物を引き受けている人もいる。発語が困難な利用者の思いは、表情で汲み取っている。今年度、事業所では利用者の生活歴を改めて掘り起こし、書き留めることに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、なじみの物など会話の中から聞き出しているが、まだ不明な点も多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。カンファレンスも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、勉強会などでADLの伝達など流れが出来ており、それを元に作成している。	入居開始時に管理者が病院や自宅を訪問し、本人や家族から要望や生活歴等を聞き取っている。計画は職員の意見を交え、事前に本人や家族へ説明し、同意を得て実行している。支援内容は月間サービス計画書を利用し、実行の有無を月毎に管理し、モニタリングに活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。月間サービスに記録し、話し合いに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で、外出など柔軟に対応出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カラオケや、歌、劇など見に行ったり、スーパーへの買い物など支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、または本人の希望する病院へ行っている。また、本人の施設での様子など記入して提供している。	入居前のかかりつけ医を継続しており、基本的に家族が通院介助を行っている。事業所は利用者の体調を記した書類を家族に渡し、かかりつけ医に状況を伝えており、受診後は、家族から報告を受けている。職員は個人記録や申し送りノートに記載し、共有している。緊急時は職員が本人の個人ファイルを持ち、受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在である。デイの方に勤務の場合は随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は電話にて、経過や退院時期など、時には延長して対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていないが、なるべくここで見ていく件は伝えている。看取りはもう一つのグループホームでの交換研修で勉強は行った。	事業所では支援体制が整っていないため、看取り支援は行わないことを入居前に本人・家族に説明している。今年1月の家族会時に書面を配付し、改めて説明を行っている。重度化し退去する際、事業所は家族と医療機関とで話し合い、できる限りの支援に努めている。職員は看取りの勉強会や救命法の研修に参加し知識を身に付けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、以前もデイの職員と、救命法には参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	訓練は定期的に行っている。火災、夜間、水害、原発など分けて行っている。施設内も禁煙にした。	今年度、消防署立会いの下、夜間想定火災訓練を行っている。訓練後、消防署からのアドバイスを受けている。また事業所独自で、土砂災害時の避難訓練を実施している。災害の種類により避難場所が違うため、事業所が不在でも掛け付けた家族等に避難場所がわかるようプレートを準備している。備蓄品も期限を記載し、保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会で声かけのやり方は行っている。利用者も落ち着いている。	職員は、利用者の人格を尊重し丁寧な言葉遣いを心掛けており、入居前に呼ばれていた呼び方で声掛けを行っている。個人情報や写真使用については家族に同意書を取っている。職員の守秘義務については、入社時に誓約書を交わしている。ただし、日中未使用のポータブルトイレやパッド類が目につく場所に置いたままの居室がある。	利用者の尊厳や羞恥心への配慮の観点から、ポータブルトイレやパッド類の扱いについては、本人・家族に確認し、配置や保管方法等、工夫・検討することに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望、食事の希望などよく聞いている。そのほかに関しても希望は聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	対応出来る限りのペース、希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントに合わせて、着物、化粧、髪をくったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいもの、希望など聞いている。食事の準備も手伝ってもらっている。	献立は職員が1週間毎、交替で作成している。入居時に嗜好調査を行い、刺身が食べられない利用者には調理方法を変える等、個別に対応している。利用者が調理の下ごしらえを手伝うこともある。一年を通じて、ソーメン流しやバイキング、みかん狩りや芋堀り、花見の弁当と豊かな食生活を送ることができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分は記録しており出来ている。朝食時がパンの方などは、パンで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットの利用に関しては話し合い統一を図った。排泄パターンなども一人一人変えている。	排泄チェック表を記録し個別のリズムを把握して、早めの誘導を心掛けている。失敗した際には、自尊心を傷つけないようさり気なく誘導している。夜間ポータブルトイレへの介助が必要だった利用者に対して、職員は支援の中で自立への可能性を見出し、敢えて見守りに徹したことで、現在は排泄が自立した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取ってもらっているが、ヨーグルト、芋のおやつ等工夫している。運動は難しい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日付を変えたり、入浴を希望される方へは、増やしている。	脱衣所にはエアコンがあり、冬季の温度差に配慮している。浴槽の湯は一人ひとり入れ替え、温度もその都度好みの温度に設定している他、皮膚の疾患を持つ利用者は、毎日入浴する等、個別の対応を行っている。菖蒲湯や足浴も行っており、入浴が楽しみとなるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	同じものではなく、個人の毛布、あんか、電気毛布など使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ある程度出来てはいるが、珍しい薬など目についたときは勉強会で話をしたりする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒー、チョコ、回転焼き、ピーナツなど希望される。カラオケ、お出かけなども希望される時は対応する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎回希望に添っては難しいが、普段行きにくいところにも、計画を立て行ったりしている。	季節に応じてチューリップ、藤棚、紫陽花などの見学に出掛けている。敬老会では島内の施設へ外出に出掛けたり、港祭の見学を行っている。また、夜間に歌劇団の公演を鑑賞する等、年間を通じてバラエティに富んだ計画を立てており、利用者の毎日の生活が豊かになるよう職員は支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おかねは、各自お小遣いがあり使いたいときに使っている(家族了承)。本人がもたれている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も希望でかけている。手紙も十分対応可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感等、壁デザインをかえたりしている。	リビングの窓から海が望め、自然光が温かい。利用者と職員が共同で作成する壁画や生花から季節を感じることができる。利用者はテーブルセットやソファで思い思いに寛いでいる。芝生の庭園があり、夏祭り時に活用している。清掃は毎朝職員が行っており、居心地よい共有空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー等で二人で座られたりしていることがある。自由である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな物など置き、自由に使って頂いている。	利用者の好みの物や使い慣れた物の持込みは自由であり、タンスや椅子、写真等自由に配している。居室ドアの小窓にはプライバシー確保のため、色とりどりのカーテンで目隠ししている。毎日職員が掃除・換気を行っており、週1回シーツを交換し、快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に手すりがついたり、ベッドの位置、高さなど調整している。		